

スギ花粉症でお悩みの患者さんは多いと思われれます。調査によると、日本人の4人に1人がスギ花粉症であると言われています。

スギ花粉症の治療は、
①抗原の回避／まずはマスクやメガネを装着して、スギ花粉を身体に入れないこと

②薬物療法／最近では以前より効果が高く、眠気などの副作用が少ない第2世代抗ヒスタミン薬が上市されています。

③アレルゲン免疫療法
④手術／薬の効果が少なかったり、鼻腔の形態異常、副鼻腔炎を合併している患者さんに行われます。

従来より、ハウスダストやスギ花粉をすこしずつ体内に入れて体を慣らす治療法が行われ、減感作療法と呼ばれていましたが、最近ではアレルゲン免疫療法と呼ぶようになりました。日本では、1963年からアレルゲンエキスが市販され、1970年代には大学病院などで盛んに行われました。

アレルゲン免疫療法はアレルギーの根本治療であり、将来のアレルギーの抑制効果もある、まさに体質改善です。正しく長期にわたって治療が行われると、鼻や目の症状を治したり、長期にわたって症状を抑える効果が期待できます。症状が完全に抑えられない場合にも、アレルギー治療薬の減量や症状

の軽減などQOL(生活の質)の改善が期待できます。しかしながら否定的な要素として、即効性に乏しいこと、次に全身副作用の発現リスクがあります。

今までは注射で抗原を体内に入れていました。これは皮下注射法によるもので皮下免疫療法SCITと呼ばれるもので、この治療法での死亡例は20万回に1回の注射で起こるとされています。また、痛みを伴う注射を長い治療期間行つということもネックになっていました。

それに対して、昨年以降、日本で行われ始めたのが舌下免疫療法SLITです。この治療法では、命に関わるような全身性のアレルギー症状は1億回の投与に1回で、やはり喘息合併例が多いと言われています。しかしながら、血圧低下などの全身反応や死亡例は今のところ報告されておりません。重度の副作用の大部分は投与後30分以内に起こりますが、早期のアドレナリン投与で治療が可能です。口腔内局所反応は高い割合で出現しますが、大きな問題となることは少ないと言われています。

現在のところ舌下免疫療法SLITの適応は、12歳以上で、IGE(血液検査)陽性、花粉飛散期に実際に病態を伴う患者さんとなります。軽症から重症まで全て行うことができます。

①増量期(1-2週目)
実際の施行法は、

1日1回、舌下に2分間薬液を保持したのち飲み込みます。その後5分間うがい、飲食を禁じます。服用前後2時間程度は激しい運動、入浴、アルコール摂取は避けるようにしてください。

②維持期(3週目以降)
1日1回、上記と同様のことを行います。スギ花粉が飛んでいない時期も含め毎日服用します。期間は3年間以上が推奨されています。

- 治療を受ける前にご理解いただきたいことは、
1. 花粉が飛んでいない時期も含めて毎日、長期間の治療となること
 2. すべての患者さんに効果を示すわけではないこと
 3. 少なくとも、1ヶ月に1度受診すること
 4. 効果があっても、終了後にその効果が弱くなる可能性があること
 5. アナフィラキシーなど、副作用が少ないながらも起こる可能性があること

となりませう。自宅で行う治療ですので、患者さんは不安があると思います。前もって想定される事態に関しては主治医から説明がありますが、異常を感じたらすぐに受診してください。以上を参考に、お近くの舌下免疫療法を行っている医師にご相談ください。

日曜・休日に実施している医療機関

午前10時～午後4時

月日	場所	施設名	科目	☎(048)	場所	施設名	科目	☎(048)	
5	朝霞	ファミリーサイズクリニック	小・アレ	458-5522	志木	内田耳鼻咽喉科医院	耳・気・外	473-3387	
									12
4	19	新座	大塚産婦人科医院	産婦・小	479-7802	朝霞	朝霞駅東口たんば内科クリニック	内・消内	
									26
29	朝霞	富岡医院	内・循内・小	461-7581	朝霞	渡邊クリニック朝霞	精・内	467-3584	



※当番医は変更になる場合もあります。確認してからお出かけください。